様式2

都市再生整備計画事業　事後評価シート

天岩戸地区（第2期）

令和8年3月

宮崎県高千穂町

様式2－1　評価結果のまとめ

都道府県名	宮崎県	市町村名	高千穂町	地区名	天岩戸地区（第2期）			面積	1150（2.3）ha
交付期間	令和3年度～令和7年度	事後評価実施時期	令和7年度	交付対象事業費	291.0（177.8）百万円	国費率	0.399（0.5）	※（ ）内、まちなかウォーカブル推進事業	

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	案内板整備事業、東本宮南駐車場トイレ整備事業、歩道橋空間創出事業
	提案事業	チャレンジショップ開店支援事業、映像資料作成事業（アーカイブ・史跡説明映像）、ビューポイントデザイン創出事業

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	岩戸川沿い遊歩道改修事業	まちづくり協議会でスケジュール等の検討や協議をするなかで、関連事業である広域連携事業を優先して整備すべきであると意見がまとまり、関係機関や住民との合意形成が図れたので事業を削除した	影響なし
	提案事業	・既存店舗改修支援事業 ・神話スポットデザイン創出事業 ・憩いのベンチ整備事業	・近年の工事費高騰等により、実現の見込みがないため削除した ・基幹事業（神話スポット整備事業）と併せてを実施したため削除した ・他所管事業において、同様の整備が実施されるため削除した	影響なし
新たに追加した事業	基幹事業	・ビューポイント整備事業 ・神話スポット整備事業 ・門前通り改修事業 ・東本宮トイレ整備事業	・地域住民との協働によるビューポイント整備を図るため追加した ・協議会等の住民アイディアを反映するために追加した ・当該エリアの整備を歩道橋の完成とあわせるため追加した ・快適性向上区域の快適、憩いの空間形成を図るために追加した	影響なし
	提案事業	事後評価	今後のまちづくりを検討するための事業効果分析を行うため追加した	影響なし

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	
	当　初	令和3年度～令和4年度		影響なし
	変　更	令和3年度～令和7年度		

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	高千穂町入込観光客数	千人/年	758	R2	1,030	R7	—	1,772	○	あり	観光客の増加を図るため、歩道橋空間創出事業や門前通り改修事業、ビューポイント整備事業、神話スポット整備事業等の観光資源の活用に加え、基盤の整備により観光地としての魅力が向上し、目標の達成に至った。	—
指標2	宿泊観光客数	千人/年	114	R2	142	R7	—	339	○	あり	観光スポットにおける案内板等の各種整備をはじめ、観光地としての魅力向上に資する事業実施により観光客の増加した。また、まちなかウォーカブル事業により一体的な観光振興が図られ、宿泊を伴う観光客の誘致に繋がり目標の達成に至った。	—
指標3	観光客消費数	億円／年	39	R2	54	R7	—	117	○	あり	観光客の誘致のため、観光地としての基盤・環境整備に加え、チャレンジショップ開店支援事業により、土産や飲食等の消費を促す取組を進めたことで目標の達成に至った。	—
指標4	門前通り歩行者	千人/年	110	R2	145	R7	—	301	○	あり	天岩戸地区の周遊環境の向上に資するまちなかウォーカブル事業である歩道橋空間創出事業、門前通り改修事業、東本宮トイレ整備事業によって、門前通り周辺において、一体的な魅力・歩行者空間の機能向上を図ったことで目標の達成に至った。	—

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	－	－	－	－			-	－			－	－

4）定性的な効果発現状況

－

5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	－	都市再生整備計画に記載し、実施できた	－	－
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	－	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	－	
官民連携による取組の実施状況	・まちづくり協議会の活動 ・まちづくりワークショップの実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた	－	・今後も、まちづくりを進めて行くための組織として、運営の支援等を継続的に行っていく。 ・必要に応じ地域意向を収集するため、WSの開催について検討する。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	－	
持続的なまちづくり体制の構築	－	都市再生整備計画に記載し、実施できた	－	－
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	－	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	－	

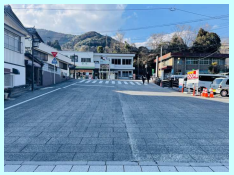
様式2－2　地区の概要

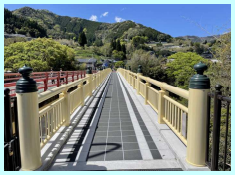
妻北地区　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標　神都高千穂の活性化をサポートする天岩戸の顔づくり 目標1　天岩戸固有の歴史・文化資源を活用・伝承する魅力あふれるまちづくり 目標2　天岩戸を訪れる人の回遊性・利便性の向上による快適なまちづくり 目標3　天岩戸の誇りを伝えられる商業・観光の活性化による活気あるまちづくり	高千穂町入込観光客数	千人/年	758	R2	1,030	R7	1,772	R7
	宿泊観光客数	千人/年	114	R2	142	R7	339	R7
	観光客消費額	億円/年	39	R2	54	R7	117	R7
	門前通り歩行者	千人/年	110	R2	145	R7	301	R7

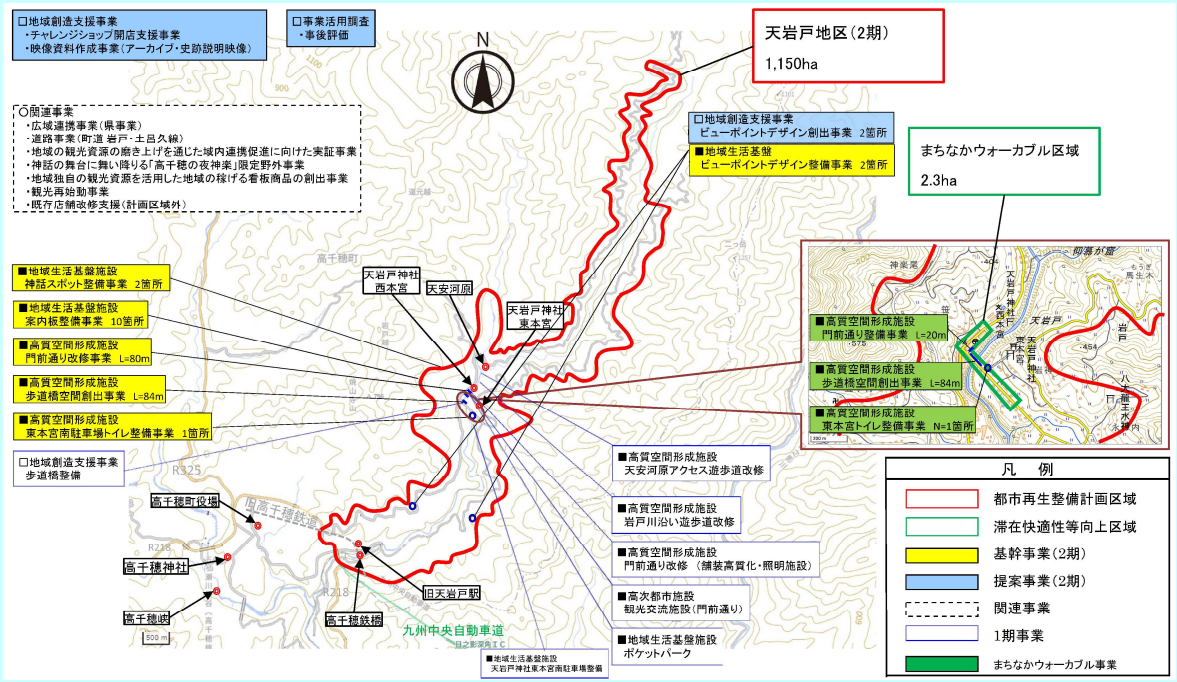

案内板整備事業


チャレンジショップ開店支援事


門前通り改修事業


歩道橋空間創出事業


門前通り改修事業




ビューポイント整備事業


歩道橋空間創出事業（ウォーカブ


東本宮トイレ整備事業（ウォーカブ

まちの課題の変化	①神都高千穂を象徴する歴史・文化資源である天岩戸神社の活用や滞在時間の延長によるまちの活性化に向け、神々の郷としての雰囲気づくり、訪れる人の利便性を高めるサービスの提供・滞在時間の延長を図る必要がある。 ⇒事業実施により観光客は増加傾向にある。増大する観光需要に対応し引き続き利便性やサービスの質向上を図る必要がある。 ②天岩戸地区内に多く存在する歴史・文化資源を生かし地区内全体を周遊して楽しめるように、各名所間の案内・誘導機能の強化によりアクセス性や回遊性、一体的な観光地としての利便性の向上が必要である。 ⇒全国的に外国人観光客が増加するなかで、本町においても外国人観光客にも対応した案内や誘導機能の更なる強化を進める必要がある。 ③天岩戸神社を訪れる多くの観光客を門前通りに誘導し天岩戸地区の商業拠点として、まちの賑わいを演出するため、周辺にある渓谷沿いの神秘的な自然景観を楽しむための基盤整備や憩いの場の創出といった仕掛けつくりが必要である。 ⇒天岩戸神社及び門前通りを訪れる観光客は増加しており、事業実施による誘導効果がみられる。観光客が滞留する場・憩いの場の創出を継続検討するとともに、更なる観光誘致を目指し、天岩戸地区における観光テーマの検討や周知を図り寛剛名所としてのイメージ強化を図る必要がある。
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	・増加する観光客の受け入れ体制を整え、更なる観光振興を図る。また、観光サービスの高質化、魅力向上によるリピーター確保を目指す。 ・観光地へのアクセス性、周遊性を向上するため、道路環境の整備を行う。また、新規・既存店舗の支援を行い魅力ある物販・飲食店舗の出店を促進する。

都市再生整備計画事業　事後評価シート
（添付書類）

（1）成果の評価

添付様式1－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
添付様式1－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
添付様式2－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測
添付様式2－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

（2）実施過程の評価

添付様式3－①　モニタリングの実施状況
添付様式3－②　官民連携による取組みの実施状況
添付様式3－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制
添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制
添付様式5－②　まちの課題の変化
添付様式5－③　今後のまちづくり方策
添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見
添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　　事後評価原案の公表

（6）都市再生整備計画事業評価委員会の審議

添付様式8　　都市再生整備計画事業評価委員会の審議

~~**（7）有識者からの意見聴取**~~

~~添付様式9　　有識者からの意見聴取~~

（1）成果の評価

添付様式１－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	―	―	―
B. 目標を定量化する指標	●		―	「指標④門前通り歩行者」の追加	まちなかウォーカブル推進事業への一部移行に伴う指標の追加
C. 目標値	●		指標①　目標値　616 指標②　目標値　72 指標③　目標値　24	指標①　目標値　758 指標②　目標値　114 指標③　目標値　39	当初計画時は従前値の基準年度となる令和2年度の値が予測だったため、確定した値の公表に伴い従前値を変更
D. その他（計画期間）	●		令和3年～令和4年	令和3年～令和7年	観光圏整備実施計画である阿蘇くじゅう観光圏整備計画が令和4年度までだったが、令和5年度から令和9年度まで整備計画の延長が決まった

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費（百万円）	事業内容	事業費（百万円）	事業内容			完成	完成見込み
地域生活基盤施設	ビューポイント整備事業	―	―	34.2	2箇所	第2回：事業の追加 第3回：規模・期間・事業費の変更 第4回：事業費の変更 第5回：規模・期間・事業費の変更	第2回：影響なし 第3回：影響なし 第4回：影響なし 第5回：影響なし	●	
地域生活基盤施設	案内板整備事業	9.0	2箇所	8.2	10箇所	第1回：規模の変更 第3回：事業費の変更 第5回：事業費の変更	第1回：影響なし 第3回：影響なし 第5回：影響なし	●	
地域生活基盤施設	神話スポット整備事業	―	―	2.0	2箇所	第3回：事業の追加 第5回：規模・期間・事業費の変更	第3回：影響なし 第5回：影響なし	●	
高質空間形成施設	岩戸川沿い遊歩道改修事業	24.0	200m	―	―	第1回：事業の削除	第1回：影響なし	―	―
高質空間形成施設	門前通り改修事業	―	―	14.9	80m	第1回：事業の追加 第3回：事業費の変更 第5回：事業費の変更	第1回：影響なし 第3回：影響なし 第5回：影響なし	●	
高質空間形成施設	門前通り改修事業（ウォーカブル）	―	―	11.4	20m	第2回：事業の追加 第5回：事業費の変更	第2回：影響なし 第5回：影響なし	●	
高質空間形成施設	東本宮南駐車場トイレ整備事業	22.0	1箇所	26.0	1箇所	第3回：事業費の変更 第5回：事業費の変更	第3回：影響なし 第5回：影響なし	●	
高質空間形成施設	歩道橋空間創出事業	120.0	84m	10.0	84m	第1回：事業費の変更 第3回：期間の変更	第1回：影響なし 第3回：影響なし	●	
高質空間形成施設	歩道橋空間創出事業（ウォーカブル）	―	―	125.0	84m	第1回：事業の追加 第3回：期間・事業費の変更 第4回：事業費の変更	第1回：指標④の追加 第3回：影響なし 第4回：影響なし	●	
高質空間形成施設	東本宮トイレ整備事業（ウォーカブル）	―	―	41.4	1箇所	第3回：事業の追加 第5回：事業費の変更	第3回：影響なし 第5回：影響なし	●	

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画 事業費（百万円）	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費（百万円）	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
地域創造支援事業	チャレンジショップ開店支援事業	2.0	－	1.3	－	第3回：期間・事業費の変更 第5回：期間・事業費の変更	第3回：影響なし 第5回：影響なし	●	
地域創造支援事業	既存店舗改修支援事業	1.0	－	－	－	第3回：期間・事業費の変更 第5回：事業の削除	第3回：影響なし 第5回：影響なし	－	－
地域創造支援事業	映像資料作成事業	6.0	－	6.9	－	第5回：事業費の変更	第5回：影響なし	●	
地域創造支援事業	ビューポイントデザイン創出事業	5.0	－	4.1	－	第5回：事業費の変更	第5回：影響なし	●	
地域創造支援事業	神話スポットデザイン創出事業	2.0	－	－	－	第5回：事業の削除	第5回：影響なし	－	－
事業活用調査	事後評価	－	－	5.6	－	第3回：事業の追加	第3回：影響なし	●	
まちづくり活動推進事業	憩いのベンチ整備事業	4.0	－	－	－	第3回：期間の変更 第4回：事業の削除	第3回：影響なし 第4回：影響なし	－	－

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

（参考）関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費 事業費（百万円）	事業費 最終変更計画（百万円）	事業期間 当初計画	事業期間 最終変更計画	進捗状況及び所見	備考
広域連携事業		（一）下野鹿狩戸線・岩戸３工区	382.0	382.0	H30～R3	H30～R3	－	－
社会資本総合整備交付金事業（通学路）		町道　岩戸・土呂久線	－	110.0	－	R2～R4	－	－
地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証実験			－	20.0	－	R3～R3	－	－
神話の舞台に舞い降りる「高千穂の夜神楽」限定野外事業			－	16.0	－	R5～R5	－	－
地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業			－	9.0	－	R4～R4	－	－
観光再始動事業			－	94.0	－	R5～R5	－	－

添付様式２－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	目標値（ウ）	目標年度	数値（エ）			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
															あり	なし
指標1	高千穂町入込観光客数	千人/年	高千穂町内駐車場の入込台数に基づき年間入込観光客数を算出	―	―	758	R2	1,030	R7	モニタリング	－	－	モニタリング	－		
										事後評価	確定 ● 見込み	1,772	事後評価	○		
指標2	宿泊観光客数	千人/年	高千穂町内の各旅館・ホテル・民宿等の宿泊客数（月次データ）より算出	―	―	114	R2	142	R7	モニタリング	－	－	モニタリング	－		
										事後評価	確定 ● 見込み	339	事後評価	○		
指標3	観光客消費額	億円/年	高千穂町を訪れた観光客の宿泊費、土産品費、飲食費を合計して年間総消費額を算出	―	―	39	R2	54	R7	モニタリング	－	－	モニタリング	－		
										事後評価	確定 ● 見込み	117	事後評価	○		
指標4	門前通り歩行者	千人/年	天岩戸神社を核とした中心地の年間歩行者数を算出	―	―	110	R2	145	R7	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ● 見込み	301	事後評価	○		

指　標	目標達成度○△×の理由（達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
指標1	歩道橋空間創出事業や門前通り改修事業、ビューポイント整備事業、神話スポット整備事業等の観光資源の活用、整備により観光地としての魅力が向上し、観光客の増加、目標の達成に至った。	―
指標2	観光地としての魅力向上に資する事業実施による観光客の増加に加え、まちなかウォーカブル事業により一体的な魅力の強化が図られ、宿泊を伴う観光客の誘致に繋がり目標の達成に至った。	―
指標3	観光地としての基盤整備、観光客の誘致に係る各種事業に加え、チャレンジショップ開店支援事業により、土産や飲食等の消費を促したことで目標の達成に至った。	―
指標4	まちなかウォーカブル事業である歩道橋空間創出事業、門前通り改修事業、東本宮トイレ整備事業により、門前通り周辺において、一体的な魅力・歩行者空間の機能向上を図ったことで目標の達成に至った。	―

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。
※2　目標達成度の記入方法
○：評価値が目標値を上回った場合
△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式２－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	数値（ウ）			本指標を取り上げる理由	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
その他の数値指標１	－		－	－		－		モニタリング	－	－	－	－
								事後評価	確定 見込み			
その他の数値指標２	－		－	－		－		モニタリング	－	－	－	－
								事後評価	確定 見込み			

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式２－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

－

（2）実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式３－①　モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
－	予定どおり実施した		－	－
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった （理由　　）			

添付様式３－②　官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
・まちづくり協議会の活動	予定どおり実施した		天岩戸まちづくり協議会 【実施頻度】計12回 【実施時期】R3年6月～R8年3月 【実施結果】夜市でのイベント開催や回遊性を高める為の天岩観光案内マップの作成・配布を実施した。また、本活動を契機に法人化することとなった。	・法人化により継続的にまちづくり活動を進めるとともに、官民連携による取組の検討・推進を図る。
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった （理由　　）			
・まちづくりワークショップの実施	予定どおり実施した		天岩戸まちづくりワークショップ 【実施頻度】計2回 【実施時期】R3年7月～10月 【実施結果】天岩戸地区のまちづくりについて、地域住民の意見を求めるためのWSを開催し、岩戸の認知向上・誘致に向けた映像作品を作成した。	・必要に応じ地域意向を収集するため、WSの開催について検討する。
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった （理由　　）			

添付様式３－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			ⅰ．体制構築に向けた取組内容	ⅱ．まちづくり組織名：組織の概要	
－	予定どおり実施した		－	－	－
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった （理由　　）				

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
高千穂町公共事業再評価委員会	副町長、岩戸地区公民館連絡協議会　会長、三田井地区公民館連絡協議会　会長、町議会議員（2名）、企画観光課　課長、総合政策課　課長	令和8年3月13日	建設課まちづくり推進係

添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標4	
指　標　名		高千穂町入込観光客数		宿泊観光客数		観光客消費額		門前通り歩行者	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【地域生活基盤施設】ビューポイント整備事業	◎	観光客の増加を図るため、歩道橋空間創出事業や門前通り改修事業、ビューポイント整備事業、神話スポット整備事業等の観光資源の活用に加え、基盤の整備により観光地としての魅力が向上し、目標の達成に至った。	◎	観光スポットにおける案内板等の各種整備をはじめ、観光地としての魅力向上に資する事業実施により観光客が増加した。また、まちなかウォーカブル事業により一体的な観光振興が図られ、宿泊を伴う観光客の誘致に繋がり目標の達成に至った。	―	観光客の誘致のため、観光地としての基盤・環境整備に加え、チャレンジショップ開店支援事業により、土産や飲食等の消費を促す取組を進めたことで目標の達成に至った。	―	天岩戸地区の周遊環境の向上に資するまちなかウォーカブル事業である歩道橋空間創出事業、門前通り改修事業、東本宮トイレ整備事業によって、門前通り周辺において、一体的な魅力・歩行者空間の機能向上を図ったことで目標の達成に至った。
	【地域生活基盤施設】案内板整備事業	◎		―		―		―	
	【地域生活基盤施設】神話スポット整備事業	◎		◎		―		―	
	【高質空間形成施設】門前通り改修事業	◎		◎		◎		○	
	【高質空間形成施設】門前通り改修事業（ウォーカブル）	○		◎		◎		◎	
	【高質空間形成施設】東本宮南駐車場トイレ整備事業	◎		―		―		○	
	【高質空間形成施設】歩道橋空間創出事業	◎		―		◎		○	
	【高質空間形成施設】歩道橋空間創出事業（ウォーカブル）	○		―		◎		◎	
	【高質空間形成施設】東本宮トイレ整備事業（ウォーカブル）	○		―		―		◎	
提案事業	【地域創造支援事業】チャレンジショップ開店支援事業	◎		―		◎		○	
	【地域創造支援事業】映像資料作成事業	◎		◎		◎		○	
	【地域創造支援事業】ビューポイントデザイン創出事業	◎		◎		―		―	
	【事業活用調査】事後評価	―		―		―		―	
関連事業	広域連携事業								
	社会資本整備総合交付金事業（通学路）								
	地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証実験								
	神話の舞台に舞い降りる「高千穂の夜神楽」限定野外事業								
	地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業								
	観光再始動事業								

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	・既存の観光資源を活かしつつ、目玉となるコンテンツの創出を図り、誘客を目指す。 ・観光資源や周遊、滞在に関する情報発信や観光地としての街並み等の統一、雰囲気づくりを推進する。	・まちづくりに係るNPOや協議会等との協働を進め、新たな見どころの発掘や観光スポットを巡る周遊ルートの検討等、既存の観光資源を活用した魅力・価値の創出を図り宿泊客数の増加を目指す。	・引き続きチャレンジショップ開店支援等により、観光客の購買、飲食の場を創出する。 ・観光資源や特産物等を周知するため、情報発信の強化を図る。	・観光ルートの検討等、観光資源の繋がりの強化を図り、観光客の周遊を促す。

添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		－			－			－			－		
指　標　名		－			－			－			－		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	【地域生活基盤施設】ビューポイント整備事業		－	－		－	－		－	－		－	－
	【地域生活基盤施設】案内板整備事業												
	【地域生活基盤施設】神話スポット整備事業												
	【高質空間形成施設】門前通り改修事業												
	【高質空間形成施設】門前通り改修事業（ウォーカブル）												
	【高質空間形成施設】東本宮南駐車場トイレ整備事業												
	【高質空間形成施設】歩道橋空間創出事業												
	【高質空間形成施設】歩道橋空間創出事業（ウォーカブル）												
	【高質空間形成施設】東本宮トイレ整備事業（ウォーカブル）												
提案事業	【地域創造支援事業】チャレンジショップ開店支援事業												
	【地域創造支援事業】映像資料作成事業												
	【地域創造支援事業】ビューポイントデザイン創出事業												
	【事業活用調査】事後評価												
関連事業	広域連携事業												
	社会資本整備総合交付金事業（通学路）												
	地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証実験												
	神話の舞台に舞い降りる「高千穂の夜神楽」限定野外事業												
	地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業												
	観光再始動事業												
改善の方針（記入は必須）		－			－			－			－		

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
高千穂町公共事業再評価委員会	副町長、岩戸地区公民館連絡協議会　会長、三田井地区公民館連絡協議会　会長、町議会議員（2名）、企画観光課　課長、総合政策課　課長	令和8年3月13日	建設課まちづくり推進係

添付様式5－②　まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
神都高千穂を象徴する歴史・文化資源である天岩戸神社の活用や滞在時間の延長によるまちの活性化に向け、神々の郷としての雰囲気づくり、訪れる人の利便性を高めるサービスの提供・滞在時間の延長を図る必要がある。	門前通りの改修や東本宮南駐車場トイレ整備、案内板整備に伴い、訪問者の利便性が高められた。 また、ビューポイントや神話スポットの整備により、地域の観光資源の活用が図られ、観光客の滞在時間の延長や地域住民の交流促進が図られた。	－	・事業実施により観光客は増加傾向にある。増大する観光需要に対応し引き続き利便性やサービスの質向上を図る必要がある。 ・全国的に外国人観光客が増加するなかで、本町においても外国人観光客にも対応した案内や誘導機能の更なる強化を進める必要がある。 ・天岩戸神社及び門前通りを訪れる観光客は増加しており、事業実施による誘導効果がみられる。観光客が滞留する場・憩いの場の創出を継続検討するとともに、更なる観光誘致を目指し、天岩戸地区における観光テーマの検討や周知を図り観光名所としてのイメージ強化を図る必要がある。
天岩戸地区内に多く存在する歴史・文化資源を生かし地区内全体を周遊して楽しめるように、各名所間の案内・誘導機能の強化によりアクセス性や回遊性、一体的な観光地としての利便性の向上が必要である。	歩道橋空間創出や案内板整備をはじめ、地区内の周遊環境や名所間の案内機能を強化し、観光地としての利便性強化が図られた。	－	
天岩戸神社を訪れる多くの観光客を門前通りに誘導し天岩戸地区の商業拠点として、まちの賑わいを演出するため、周辺にある渓谷沿いの神秘的な自然景観を楽しむための基盤整備や憩いの場の創出といった仕掛けづくりが必要である。	門前通りの改修や東本宮南駐車場トイレ整備、歩道橋空間創出により、観光に係る利便性の強化を図るとともに、チャレンジショップ開店支援事業や映像資料作成により観光客の誘致が図られた。	－	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5－③　今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	観光需要への対応	観光客の受け入れ体制を強化するとともに、リピーター確保に向けた観光サービスの高質化を目指す。また、自動車によるアクセスに対応するため、駐車場機能の拡充（満車表示機能等）による効率化を図り受け入れ体制の強化を図る。	・観光案内の多言語化 ・観光テーマ、街並みの意匠統一・検討 ・観光客が滞留する場、憩いの場の創出 ・駐車場の整備・拡充　等
	魅力ある観光地の形成	天岩戸神社周辺をはじめ、観光客が訪れやすく、周遊しやすい観光地とするため、道路の一方通行化等を進め通行・歩行しやすい道路環境の整備を図る。また、チャレンジショップ開店支援をはじめ、魅力ある物販・飲食店舗等の開店支援の継続を図る。加えて、地域との協働によるイベント開催等、地域が一体となった観光振興・まちづくりを図る。	・既存店舗の改修支援 ・新規店舗の開店支援 ・観光地を結ぶ道路改修 ・地域主導のイベント開催支援　等

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改　善　策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	―	―	―
	―	―	―

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4－②）を再確認した。
―	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式4－③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式5－②）を再確認した。

添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見

―

添付様式５－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式２－①、２－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、１年以内の達成見込みは添付様式２－①、２－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、１年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指　標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画 予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	高千穂町入込観光客数	千人/年	758	R2	1,030	R7	確定	●	1,772	○	あり	―	―	―
							見込み				なし			
指標2	宿泊観光客数	千人/年	114	R2	142	R7	確定	●	339	○	あり	―	―	―
							見込み				なし			
指標3	観光客消費額	億円/年	39	R2	54	R7	確定	●	117	○	あり	―	―	―
							見込み				なし			
指標4	門前通り歩行者	千人/年	110	R2	145	R7	確定	●	301	○	あり	―	―	―
							見込み				なし			
その他の数値指標1	―	―	―	―			確定		―			―	―	―
							見込み							
その他の数値指標3	―	―	―	―			確定		―			―	―	―
							見込み							

添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	継続集計または規定の集計方法で整理される値を各指標に用いたため、達成状況の把握や事業効果を適切に把握することができた。	・指標データの変化を計測することで、改善状況の把握や見込値の推計が安易となる。
	うまく いかなかった点	―	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	各指標と関連する事業の整合性が図られた。	・都市再生整備計画策定時には、事後評価を見据え、可能な限り当該地区の変化が分かる評価指標の検討も想定しておく必要がある。（適切な評価指標の設定が可能の場合）
	うまく いかなかった点	―	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	まちづくりWSの実施により、観光振興及びまちづくりに対する住民意識の醸成に繋がった。	・住民参加により事業内容を検討することは、地域に根差した取組となるとともに、継続的な活用や取組継続に繋がる。
	うまく いかなかった点	―	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	―	―
	うまく いかなかった点	―	
その他	うまくいった点	―	―
	うまく いかなかった点	―	

添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

該当なし

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町ホームページに掲載	令和8年3月6日～ 令和8年3月19日	令和8年3月6日～ 令和8年3月19日	持参、郵便、ファックス、電子メール	建設課まちづくり推進係
広報掲載・回覧・個別配布	―	―	―		
説明会・ワークショップ	―	―	―		
その他	担当部署での閲覧	令和8年3月6日～ 令和8年3月19日	令和8年3月6日～ 令和8年3月19日		

住民の意見	意見なし

（6）都市再生整備計画事業評価委員会の審議

添付様式8　都市再生整備計画事業評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	―	令和8年3月13日	建設課まちづくり推進係	高千穂町公共事業再評価委員会設置要綱	高千穂町公共事業再評価委員会
その他の委員	副町長、岩戸地区公民館連絡協議会　会長、 三田井地区公民館連絡協議会　会長、町議会議員（2名）、 企画観光課　課長、総合政策課　課長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	なし
	成果の評価	なし
	実施過程の評価	なし
	効果発現要因の整理	なし
	事後評価原案の公表の妥当性	なし
	その他	なし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当である
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・地域住民が参加できるイベント実施の検討も必要である。 ・狭隘道路の整備を継続し、歩行者の安全性を確保する必要がある。 ・まちの活性化に向けた情報発信が必要である。
	フォローアップ	なし
	その他	なし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当である。
その他		なし

※1　審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。